

牧師室から (2022.12.25)

今日 (25日) はクリスマスである。「平和の君」イエス・キリストがこの世に来られた日である。

第一次世界大戦中には、クリスマス休戦というのが独英の間にわずかな期間ではあったが、あったらしい。その間にお互いの兵士が「きよしこの夜」を謳ったというのをどこかで読んだことがある。

ロシアとウクライナはおおよそ東方教会が宗主であるのでクリスマスは1月6日であろうが、とてもその時期に休戦するようには思えない。かえって、ウクライナではロシアとの違いを強調するために、ヨーロッパ諸国に合わせて、12月25日をクリスマスとして祝う動きがある。

ウクライナのゼレンスキー大統領は訪米して、アメリカとの結束と一層の支援を求めているし、ロシアのプーチン大統領はより攻撃的なミサイルを使用することも考えていると表明している。互いに徹底交戦の姿勢である。平和のためにと唱えながら、血まみれの戦争をする。このような私たちの世界に、真の平和をもたらすためには、神の子イエスが来なければならなかった。ここに希望がある。

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

(ルカによる福音書2章14節)

(鈴木淳一牧師)